

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

A Tribute to Prof. Kitabatake

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 1998-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 家, 正治, Ie, Masaji メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1672

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



北島 霞先生をお送りして

家 正 治

北島 霞先生は、本年（1998年）3月31日、神戸市外国語大学を御定年により退職されました。御無事に御定年を迎えられました先生に対して、衷心より慶賀し御祝詞を申し上げます、と申し述べるよりか、先生には本当にお疲れ様でございました、と申し述べたいのが現在の偽らぬ気持ちです。先生は国際関係学科の設置と同時に御赴任下さり、本学科の揺籃期を支えられ、またその後の発展に多大のご尽力をつくして下さいました。御退職になられたことで、先生の存在がいかに大きかったかを再確認しているところです。

先生は、新聞社の海外特派員として赴任された期間も含めて、長年ジャーナリズム関係のお仕事に就いておられました。本学には民間からの学識経験者として、学部においては「英語講読」、また大学院では「異文化と社会」を御担当になり、それまでの豊富な学識と御経験を生かした御授業は、受講した学生から羨望を感じるほどの好評を得ておられました。とりわけ、英字紙から教材をとられて、学生が興味・関心をもつよう工夫された英語の御授業の人気については、寡聞な筆者の耳にも届いておりました。また、学生への面倒もよく見られ、例えば課外にマスコミ研究会を組織して学生を指導したり、学科や留学生の集いや懇親会にも御多忙な中をしばしは顔を出しておられました。そのような先生のお姿に筆者はあるべき教育者、教師像を見ておりました。

逆になってしまいましたが、先生の御研究は米国およびその対外政策が中心になりますが、真摯に精力的に同テーマを追求してこられました。御在職

中、筆者は先生にお入り頂いて「民族と自決権に関する研究班」を組織して共同研究を行なったことがあり、先生にはカナダのイヌイット問題を御担当頂きました。研究例会後、繰り込んだ居酒屋で喧喧譁譁議論を続けたことは誠に楽しく懐かしい思い出として残っています。また、先生は、御研究の一環として『毎日ウィクリー』紙に「ポトマック英語散歩」と題する米国英語を通して同国の政治文化について連載しておられましたが、同僚から「自分の娘も毎月楽しみに読んでおり、先生のファンです」と聞いたように、学術上の研究論文だけでなく、青年向けの啓蒙的なお仕事でも御健筆をふるわれました。

一般に大学の教員には、研究、教育、学内業務、さらに社会的な職務があるといわれますが、先生は研究と教育だけでなく他の2つの任務にも真剣に取り組まれました。その中には、学科代表として学科をとりまとめ、その発展と大学全体との調整に奔走・尽力されました。また、1994年4月から3年間、図書館長に就任され、大学全体の研究と教育の充実と発展のためにその重責を見事に全うされました。また、社会活動としては、神戸市の神戸平和記念会館基本構想懇談会の委員として御活躍になられました。

また、先生の御人柄は、誰もが認めることとして、折目正しく篤実で責任感の強い方で、筆者はどのような時にも興奮して声を荒げられたり、怒りを他人に打付けておられることを目にしたことはありません。停年制度とはいえ、本当に立派な研究者であり教育者であられる先生をお送りすることになってしまいました。しかし、先生に御安心頂くためにも、在職者が今後頑張らなければならないとの確信を固めています。

先生は御退職後、関西国際大学で引き続き御教鞭をとっておられます。先生には、御健康にくれぐれも御留意下さり、愈々一層の御発展と御活躍を下さることを心より念願するものです。同時に、神戸市外国語大学および国際関係学科の発展のために、今後とも御指導・御鞭撻を賜りますようお願いものです。